

## 第1章 計画の策定にあたって P.1~7

## 1 計画の背景

国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第五次)」と「第四次山形県子どもも読書活動推進計画」を踏まえた計画として、「第3次鶴岡市子どもも読書活動推進計画」を策定します。

## 2 第2次計画の成果・課題

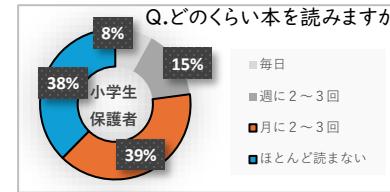
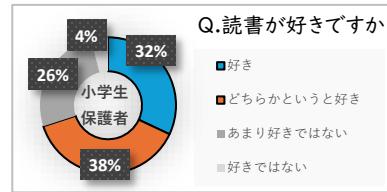
【基本方針】①子どもの近くに本がある暮らし ②子どもの近くに本の渡し手がいる暮らし  
③子どもの近くに読書活動を見守る人がいる暮らし

## 各調査結果から見える現状と課題

読書に関するアンケート結果より(R6年度実施)  
・市内小学生及び保護者1,373人・市内中学生841人・市内高校生242人

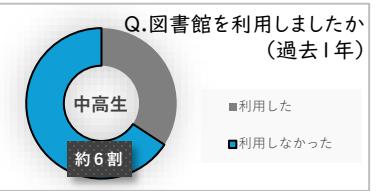
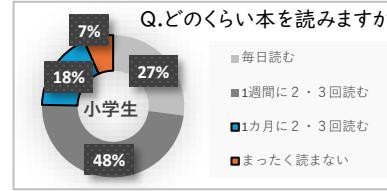
## (1) 保護者の読書推進について

アンケート結果より、読書が好きな割合が7割を占めている一方で、半数近くが本はほとんど読まないと回答。



## (2) 子どもたちの読書状況について

アンケート結果より、ゲームやスマートフォン等の利用が優先され、読書時間が確保できていない、またそもそも本を読みたいと思わないという回答が多い。



・ゲームやスマートフォンの利用が優先され、読書時間が確保できない現状  
・読まない・図書館を利用しない理由として「本を読みたいと思わない」という回答  
小学生14%・中学生35%・高校生23%

## (3) 学校図書館の利用状況について

アンケート結果より、読みたい本があった場合学校図書館を利用するという回答が多く、特に小中学生は身近な学校図書館の利用を習慣づけていくことが大切。(第2章6数値目標の中で現状を記載)

## 第2章 計画の方針 P.8~10

## 1 計画の位置づけ

第2次鶴岡市総合計画 後期基本計画

国 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第五次)

鶴岡市教育大綱

県 第四次山形県子どもも読書活動推進計画

## 第3次鶴岡市子どもも読書活動推進計画

## 2 計画の期間及び対象

◆期間:令和8年度からおおむね5年間(必要に応じて見直し)

◆対象:0歳から18歳までの子ども

※読書活動の推進については、大人を含む全ての市民を対象とする

## 3 計画の策定体制

図書館運営・読書活動に関わる有識者等で構成する「鶴岡市子どもも読書活動推進委員会及び市の関係課職員で構成する「鶴岡市子どもも読書活動推進計画策定室内会議」を設置し、市立図書館が事務局となって策定。さらに、関係機関・施設からの意見聴取やパブリックコメントも実施。

## 4 目指す子どもの読書活動の姿

推進委員会にて検討

## 5 計画の基本方針

子どもの近くに  
本がある暮らし

子どもの視点に立った取組みの実施や、学校図書館の充実等により、身近に本がある環境の中で、自然と本に触れ合い、読書の習慣化を目指す。

子どもの近くに  
本の渡し手がいる暮らし

身近にいる人々の協力により、様々な場面で子どもが本に興味を持つきっかけづくりを行い、自主的に本に親しむ環境をつくる。

子どもの近くに読書活動を  
見守る人がいる暮らし

子どもたちを取り巻く環境の変化にも対応しながら、読書環境を確保し活動を見守る。また、多様な子どもたちに適応した読書環境を整備する。

## 基本的な視点

- ◆子どもが自然と本に触れ合える環境の整備
- ◆多様な子どもに必要なサービスの提供

- ◆自主的に本に親しむきっかけづくり

## 6 計画の数値目標

目標項目	平成30年度	令和6年度	令和12年度
①児童図書の蔵書冊数[市立図書館] (15歳以下1人あたり)	6.4冊	8.6冊	10冊以上
②児童図書の貸出年間冊数[市立図書館] (15歳以下1人あたり)	10.3冊	11.7冊	14冊以上
③学校への団体貸出年間冊数 [市立図書館] (1学級あたり)	11.6冊	12.0冊	15冊以上
④保育園・幼稚園への団体貸出年間冊数 [市立図書館] (入園者1人あたり)	2.5冊	3.0冊	4冊以上
⑤ブックスタート事業による効果	59%	令和7年度調査中	70%
⑥子どもの不読率 (1か月に一冊も本を読まない)	小学生 6.8% 中学生 12.5% 高校生 5.5.3%	小学生 8.5% 中学生 23.4% 高校生 48.3%	小学生 2%以下 中学生 8%以下 高校生 26%以下

参考  
数値

学校図書館での貸出年間冊数  
[市内小学校・中学校]  
(生徒1人あたり)

令和6年度実績  
(小学校) 1年生: 163.9冊 2年生: 189.2冊 3年生: 135.5冊  
4年生: 114.3冊 5年生: 88.6冊 6年生: 86.3冊  
(中学校) 1年生: 29.6冊 2年生: 25.3冊 3年生: 17.2冊

## 第3章 子どもの読書活動推進のための取り組み P.11~21

プレママ・パパ 0・1・2歳児	子どもが生まれる前から、読み聞かせや本に触れる大切さを伝え読書活動を支援する。 ○母子手帳交付時リーフレット配布
3・4・5歳児	五感で本の楽しさを感じる大切さを伝える“たねまき”の時期。 ○ブックスタートの実施 ○乳幼児検診会場への絵本コーナーの設置 ○子育て応援ギフト事業(R6年度~)
小学生	本の楽しさを知る大切な時期。周りの大人が積極的に関わり本と親しむ環境をつくることが重要。 ○保育園・幼稚園での絵本コーナーの設置 ○おはなし会の実施
中学生	絵本から児童書へ移行し読む本の幅が広がる時期。身近な大人が本の渡し手となりきっかけを与えることが大切。 ○学校図書館を活用した授業の実施 ○文芸創作の芽を育む事業の実施検討 ○図書館リレー企画の実施(R6年度~)
高校生	読書離れが加速する時期。わずかな時間でも本に触れることが習慣となるような働きかけが重要。 ○市立図書館での職場体験の受け入れ ○「青春の煌めき文庫」(YAコーナー)の充実
大人になつても	同年代での情報共有が有効。自習を目的とした図書館の利用が多いが、本への関心を持つような情報提供を続けていく。 ○市立図書館と高校図書委員会の連携 ○市立図書館での読書や自習のための環境・居場所の提供
	身近な大人が読書をする姿が子どもの読書意欲に影響する。多様なニーズに応え、図書館が過ごしやすい居場所としていく。 ○市立図書館と他部署との連携展示 ○市立図書館の新たな利用者開拓に向けた事業の実施検討